昭和25年10月3日第3種郵便物認可

月刊
新翔タイムズ
第44号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

第5回卒業式
人との出会い、時間を大切に
七瀧校長が「一期一会」の言葉贈る

1日、本校体育館で第5回卒業証書授与式が挙行された。

七瀧高至校長は式辞で「震災や就職難と経験してきたように、様々な困難がこれからもあると思いますが、人との出会い、時間を大切に生きてください。皆さんに出会いの大切さを表す『一期一会』の言葉を送ります」と述べた。

在校生代表として生徒会長の前田建人君（2年1組）が「卒業生の皆さんが残してくれたものを大切にします。卒業生の皆さんも三年間過ごしてきた思い出を胸にがんばってください」と卒業生に向かって言葉を送った。

数々の祝辞を受けて最後に卒業生代表の汐崎達也君（3年2組）が三年間を振り返って「今まで高校生活を過ごせたのは多くの人の支えがあったからです。当たり前の生活を支えてくれた人に感謝を忘れず、今度は自分たちが周りの人のために何かをしてあげられる人間になりたいです」と答辞を述べた。本年度は男子59名、女子49名、計108名が新翔高校から卒業した。

11人が体験談を発表
1年生のインターンシップで

2月24日、キャリア実習室で1年生「産業社会と人間」の学習の時間に1学年全体でインターンシップ（就業体験）の報告発表会が実施された。

この報告会では、1月25日から27日の3日間おこなわれたインターンシップについて、それぞれの体験した成果や反省点をレポートにまとめて、各クラスで全員が発表し、そのなかで選ばれた代表者11人の発表となった。

働くことの厳しさを知った、本当にこの仕事に就きたいと思った、挨拶が大切だと思った、職場の人への感謝など、体験できてよかったと語った。

また、そのなかで、「もし、インターンシップに行かなかったら、自分のしたい仕事を何も知らないまま、自分の将来にむけて進んで後悔してしまう可能性もあったと感じ、自分の将来は重要なので私の将来にあっているか考えていきたい。」という報告もあった。

聞いている生徒もメモをとりながら、真剣に同級生の話に耳を傾けた。この体験を2年生の総合学習の時間で活かし、将来につなげていってもらいたいと思う。

言葉の重みひしひしと
災害現場での活動に耳傾ける
「熊野と防災」の授業

2月24日CAD室でNPO法人和歌山災害救助犬協会の理事長榎本義清氏他スタッフ2名による講演を実施した。

はじめにパワーポイントを利用して榎本氏がボランティアや津波避難に関する基礎知識、実際に活動された新潟県中越沖地震・東日本大震災や台風12号での活動の様子等を説明された。その上で、近い将来発生が予測されている東海・東南海・南海地震への備えやそれに対する現在の中高生に期待することを話された。

また、新宮市内津波想定（CG）では、津波が来たときの市内各地の様子を見ることで、改めて津波の脅威を感じた。

その後、悠久館外の空きスペースに場所を移し、災害救助犬3頭とスタッフによるデモンストレーションや救助犬とのふれあいを行った。

今回の講演を通して生徒たちは、救助犬の大きさやよく訓練されていることに驚くとともに、現地で活動された方々の言葉の重みで、防災に関する意識を高めた。

喜びの歓声上がる
24年度入試の合格発表

21日午前10時、合格者の番号が正面玄関に張り出されると、喜びの歓声が上がった。友人と携帯電話で写真を撮ったり、家庭に連絡する合格者がたくさん見られた。総合学科153名が合格した。

1、2年生対象に進路説明会

このほど1、2学年生徒全員を対象とした進路説明会を実施した。生徒たちは各学年ともあらかじめ希望していた分野にそれぞれ分かれ、二十一会場で進路に関する学習を行った。それぞれの分野では大学や専門学校などの先生が講師を務めていただいた。

特に1年生の就職の分野では「進路の意識」や「正社員とフリーターの違い」をテーマにした寸劇を見、2年生の就職の分野では「面接の成功例と失敗例」に関する寸劇を見てあいさつの仕方を学習した。また進学の様々な分野では受験のための勉強方法や今から準備しておくべきこと等の指導を受けた。

参加生徒からは「とてもわかりやすかった」「とても役に立った」「進路について考える参考になった」「就職は甘くないと思った」「就職に向けて頑張ろうと思った」などの感想が寄せられた。

クラブ紹介
写真部

写真部は、文化祭展示に向けての写真撮影が大きな取組の一つです。以前は、空き箱で作った「ピンホールカメラ」で、現像段階から取り組んだこともあります。

毎年、卒業生のために、アルバム作成を行っています。思い出の場所や風景を選んで撮影・現像し、アルバムを手作りします。

今後は、一般の写真コンテストへの応募も積極的に行うなど、一人ひとりのやる気とアイデアをどんどん出してほしいと思っています。

写真撮影は個人的な取組が多いのですが、クラブ全体としてのチームワークも大事にして、意欲的に取り組んでいく姿勢を求めています。

下里小でよみかたり

昨年12月の3小学校との交流活動に続き、2月10日に那智勝浦町立下里小学校を訪問し、今年度最後の活動を行いました。

参加したのは3年生3名で、対象児童は1年生17名のとても元気いっぱいで活気ある子どもたちでした。

まず手あそび「おてらのおしょうさん」で緊張をほぐした後、『ねずみくんのチョッキ』、『ラーメンちゃん』、『シュークリームのおきゃくさま』（紙芝居）、『おばけのてんぷら』、『もっちゃうもっちゃうもっちゃうもっちゃう』と続きました。その間、和やかだけれど活発なやりとりがあり、最後に少し時間があったので、『ぼちぼちいこか』を小学生にも参加してもらってよみかたり、45分は瞬く間に過ぎました。それぞれの絵本、紙芝居の感想を聞かせてもらい、「すごく楽しかった。また来て下さい。」とのことばをいただきました。生徒たちは大きな達成感を胸に小学校を後にしました。

山面沙稀さんは「少し緊張したけれど、下里小1年生はすごく反応がよくて、読みやすかったです。後輩にも是非訪問してもらいたいなあ。また3年間の活動を振り返ってみると、1年生の頃と比べたら人前に立つのが少し慣れたし、緊張はするけれど、毎回違った感動をもらって自分が癒やされます。高校生活の中で、このボランティアをしたことがとてもよい経験になりました」と感想を寄せてくれました。

和歌山高校からチューリップ寄贈

2月11日、和歌山県立和歌山高等学校より30個のプランターに植えられたチューリップの芽が本校に贈られた。本校を代表して生徒会長の前田建人君が和歌山高校の生徒会長と副会長からプランターを受け取った。

和歌山高校は以前から校内で花いっぱい運動を行っており、今回のチューリップの芽は同じ総合学科である本校に台風被害に対するお見舞いとして贈られたものである。昨年10月頃から芽が出るまで和歌山高校が育ててくれていた。

プランターは本校ラグビー部の協力のもと、本館1階職員室前の花壇に設置された。3月末から4月頃には赤、白、黄、三色の花が咲くとのこと。

◆先生の紹介◆
新宅さやか先生

担当教科は国語、クラブ活動は茶道部の顧問をしています。地元出身なので、私が小さい頃から知っている方々もこの記事を目にされるかと思うとかなり恥ずかしいです。

「面白きこともなき世を面白く」高杉晋作の辞世の句です。うまくいかないことばかりで、「やれやれ、世の中すべてが嫌になっちゃうな」と投げやりになっていたときにこの言葉に出会いました。衝撃を受けました。丸まった背中をどんっと叩かれ、うつむいていた顔をぐいっと前に向けられたような気になりました。「面白くなければ、自分で面白くすればいいじゃないか」「少しでも楽しもうとしているのかい？」歴史好きの方からはお叱りを受けそうな勝手な解釈ですが、そう言われた気がしました。勇気が出ました。それ以来、くじけそうな時はいつも「面白きこともなき世を面白く」とつぶやきます。何でも魅力を見つけて楽しんでやろうと気概が出ます。言葉とは不思議なものです。

言葉には力があり、国語はその力ある言葉と生徒達が出会う教科であると思っています。出会った言葉が生徒達を勇気づけるものでありますようにと願います。また、国語はすべての教科の基礎、学ぶ力を身につけるための教科であるとも思います。学ぶ力とは、「見習う、教えを受ける、経験する。そうして知識や技術を得る力」のことです。生徒達が、国語の授業を通して新しい知識を得、さらに、それをきっかけに興味を広げてまた別の知識を得る。そのようにして自ら学ぶ力を発揮して理解できる世界をどんどん広げる手助けができればいいなと思います。

私自身、まだまだ未熟で、もっともっと、学ぶ力を身につけたいと思っています。これからも、「面白きこともなき世を面白く」を信条に、知り得たことが、また別の知りたいことに結びついていく百科事典のような授業を展開することを目標に、生徒達と学んでいきたいです。